

地域の魅力を深掘り



三戸

三戸町の三戸高校みらい探求コースの3年生が、地域の魅力を深掘りする取り組みを進めている。高校生のキャリア形成・研修の一環で、地域の祭りや特産品などを取材し、その成果を地域情報発信ウェブ記事にまとめる。このほど、同校で発表会が開かれ、生徒たちがそれぞれの視点で調べ、理解を深めた地域の魅力を紹介した。

(藤田幸雄)

地域団体「サンノヘール」の五十嵐淳代表が講師を務め、本年度は計6回、各2時間の授業を行った。生徒11人が出身地に合わせて三戸、田子、それぞれの視点で地域の魅力を取材した三戸高生徒たち

三戸高生が取材 ウェブ記事に

南部・五戸の3班に分かれ、「五戸まつり」や「ジュノハート」、「ガーリックセンター」など、各班2本ずつテーマを決めて深掘りした。

このうち、「11ぴきのねこのまちづくり」をテーマに選んだ三戸班の生徒たちは「11ぴきのねこの石像だけを見て終わってしまふ観光客が多いような気がする」と指摘。町役場まちづくり推進課の明戸一樹さん取材し、全ての石像を見つけると食事の割引クーポンや特産品をプレゼントする企画案を提案したところ、高評価を得たという。

生徒たちは来年3月の卒業までに、それぞれの内容を記事にまとめ、ウェブ上のローカルメディア「サンノワ」に順次掲載する。日保玲唯菜さんは「11ぴきのねこに対する役場の方の思いを知ることができた。記事を見て少しでも多くの人が三戸町に興味を持ってほしい」と話した。